

鹿児島県小中学校長研究大会 分科会記録

○ 日時 令和6年11月15日(金) 12:30~13:50

○ 分科会 I 中学校 第1分科会

「教育課程・評価の工夫」

○ 研究主題

『生きる力』を育成する教育課程の編成・実施・評価～よりよい『総合的な学習の時間(ひおき学)』をめざして

○ 協議題

「知・徳・体の調和のとれた特色ある教育課程の編成・実施・評価」

○ 発表者 日置市立日吉学園 松尾 明

○ 司会者 日置市立土橋中学校 柚木 義哉

○ 記録者 日置市立吹上中学校 波戸 三幸

#### 【質疑応答】

(質問：溝辺中 東 浩二 )

- ・ 20年間続いていた焼酎づくりは一切やめたのか。

(質問：里中 加藤 晃一 )

- ・ 焼酎づくりをやめることについて、職員の反対があり説得したそうだが、地域住民や保護者の反対はなかったのか。

(応答：日吉学園 松尾 明 )

- ・ 地域の企業である小正醸造はつながりの深い会社であり、焼酎づくりに変え工場見学を実施し、今後もつながりを大切にすることで、納得していただいた。

- ・ 地域や保護者の反対については、最近では、焼酎の芋植えのみ保護者2名程度が参加する関わりだったため、反対はなくスムーズに実施できた。

(質問：串木野中 森本 信一 )

- ・ 総合的な学習の取組で「CAPD」サイクルが活用され、機能していることはわかった。それ以外で「CAPD」サイクルを活用して進めていることはあるか。

(応答：日吉学園 松尾 明 )

- ・ その他では「研修」での活用がある。必ずC(評価)からスタートし、課題を明らかにして取り組むことにしている。

(質問：安房中 鶴田 荘太 )

- ・ ひおき学はいつからスタートしたのか。

(応答：日吉学園 松尾 明 )

- ・ H29年からスタートしている。今回日吉学園は総合を中心に取り組んでいるが、「知・徳・体」3つの分野での取組である。

#### 【グループ討議後の班ごとの発表】

(A班：加治木中 塩津 一弘)

- ・ 総合的な学習の課題について話し合った。日吉学園の発表にあったように、課題は、職員を変えることだということが話題に上がった。

加治木中でも探究的な学習を「エンジン」と名付け年間20時間実施している。発表の場は文化祭で、企業の力も借りて運営している。また、小中連携についても課題があるという話が出された。

(H班：亀津中 政岡 健作)

- ・ 総合的な学習の時間の編成や実施について話し合った。

海星中ではふるさとコミュニケーション科で地域の産業に学ぶ学習に取り組んでいる。小中連携による取組も行われている。

喜界中では喜界学という名前で、島口・島唄など中高一貫での学びを行っている。ジオパークについての学習もあり、大学の協力もいただき、探究的な学習に取り組んでいる。

亀津中では、徳之島学という名前で、副読本を使って地域と一体になった学びが実現できている。

質問・・・日吉学園の場合、総合的な学習で学んだことをどのような場面で発表しているか。

(応答：日吉学園 松尾 明 )

- ・ 発表はやはり文化祭の場で行っている。3つの班に分かれ、パワーポイントを使って発表を行った。せつぺとべ班は生歌を歌ってもらい、踊りも披露した。保護者は、私たちも知らなかったことがあったと話し、勉強になったと大変好評であった。

前期課程も、総合的な学習の学びを発表する場を設けたいと提案しているが前期課程の先生方は、「小学校では学習発表会は、もうしないですよ」となかなか進まない現状がある。「表現なくして思考はない」と考えているので、なんとか中学生のような発表の場をつくっていききたい。

鹿児島県小中学校長研究大会 分科会記録

○ 日 時 令和6年11月15日(金) 14:15~15:35

○ 分科会Ⅱ 中学校 第1分科会

「教育課程・評価の工夫」

○ 研究主題

『生きる力』を育成する教育課程の編成・実施・評価

○ 協議題

「知・徳・体の調和のとれた特色ある教育課程の編成・実施・評価」

○ 発表者 徳之島町立東天城中学校 大田 耕造

○ 司会者 徳之島町立手々小中学校 廣瀬 孝一

○ 記録者 徳之島町立井之川中学校 園田 泰浩

【質疑応答】

(質問：串木野中 森本 信一)

- ・ 中1ギャップ等による不登校状況及び学校の対応等の在り方について教えてほしい。

(応答：東天城中 大田 耕造)

- ・ 現在、複数名の欠席しがちな生徒が在籍している。その対応策として、これまでの生徒会室を個別相談室として活用して学習支援等を行った結果、欠席日数が減少した生徒もみられるようになった。

(質問：南指宿中 川畑 哲也)

- ・ 防災に関する取組についてくわしく教えてほしい。

(応答：東天城中 大田 耕造)

- ・ 総合的な学習の時間を含め、毎年10回、「レスキュータイム」として実施している。

- ・ 交通安全教室や避難訓練、保健体育科の授業(心肺蘇生)の前後でレスキュータイムを実施することで、関連する知識等を深めることにつながっている。

(質問：吉田南中 平田 睦)

- ・ 防災に関する取組に力をいれるようになったきっかけを教えてほしい。

(応答：東天城中 大田 耕造)

- ・ 東天城中は海岸に近い海拔3メートルに立地しており、津波で甚大な被害を受ける危険性が高い。また、交通経路等の遮断等により救助活動が困難になることが予想されるため力を入れて取り組んでいる。

- ・ 文部科学省の令和2年度・3年度学校安全総合支援事業指定地区として「防災教育」に取り組んだこ

とを継続して実施している。

(質問：伊仙中 寿山 敏)

- ・ 放課後のチャレンジタイムで活用しているプリント作成等における意図や注意点等があれば教えてほしい。

(応答：東天城中 大田 耕造)

- ・ 今年度は学習アプリを活用している教科が多い。生徒はタブレットを使いながら積極的に取り組んでいる。

(質問：伊仙中 寿山 敏)

- ・ 学校独自で実践していることと行政機関からの依頼の下、連携を図りながら実践していることについて、教育課程編成上の工夫があったら教えてほしい。

(応答：東天城中 大田 耕造)

- ・ 町から企業等との連携依頼等がある場合は、本校の教育的課題の解決に向けて、どのような実践が効果的か、しっかりと検討することを心掛けている。

【グループ討議後の班ごとの発表】

(G班：吹上中 波戸 三幸)

- ・ 吹上中で行っている母校貢献活動及び中学校職員(中学生の補佐付き)による小学校での乗り入れ授業等を実践することで、郷土に対する愛情深い学校となっている。1年生の郷土学習「吹上のためにできること」をテーマとした研究を地域と連携して実践している。また、学校としても地域からの様々な依頼等には応えるようにしている。外部講師についてはオンラインによる活用も検討してはどうか。

(D班：高尾野中 鷺見 博生)

- ・ 地域の特性を生かした総合的な学習の時間の工夫として、内之浦中の「宇宙教室」、高尾野中の「ツルクラブによる朝の観察」、西指宿中の「西中ラーニング」の紹介があった。坂元中では「心の健康教育」の一環として朝の体操を取り入れたところ、不登校生徒の減少につながったこと等の報告があった。また、ミドルリーダーの活用・育成についての意見交換があった。

(E班：野田中 瀧上 盛人)

- ・ 特色ある教育活動に関する教育課程編成に当たり、悩んでいることや苦勞していること等について話し合われた。特に体育大会の時期や開催方法を変更し

た学校については、他の行事（文化祭や新人戦）との調整で苦労したことなどの発表があった。また、緊急時に学習を止めないための手立てや不登校生徒対応としてオンライン授業を活用することが予備時数の削減にもつながるのではないかな等の意見交換がなされた。

#### 【指導助言】

県教育庁義務教育課義務教育係主任指導主事兼係長  
假屋 一成

#### ・ 実践発表について

いずれの学校も地域に根差した素晴らしい実践を行っている。

##### 〈日吉学園の実践〉

教育課程を編成し、それを基に教育活動を展開していくことを通して学校教育目標の実現を目指す。研究の視点については学習指導要領に示されている教育課程編成に当たってのカリキュラム・マネジメントの3つの側面を反映したものである。

CAPDサイクルにより教育課程の実施状況の評価して改善を図るとともに、教育課程実施に必要な人的・物的体制を確保することで、児童生徒がふるさと日吉に愛着や誇りを持てるようになってきたことが取組の成果から分かる。

##### 〈東天城中の実践〉

研究の視点(1)、(2)については中央教育審議会答申に関係ある言葉(不易と流行)、(3)はカリキュラム・マネジメントの側面にもある教育課程実施に必要な人的・物的体制を反映したものである。

特色ある教育活動については東天城中だけではなく町全体として実践してきたことが分かる。

#### ・ 教育課程編成と学習指導要領との関わりについて

現代社会や学校における課題を解決するためには、教科等横断的な視点で取り組まなければならない。様々な教科と組み合わせながら実践するためには、例えば日吉学園の実践にあるように総合的な学習の時間系統表を作成し、全ての教科で関連付けながら取り組むことが大切である。

また、言語能力の育成はすべての教科に関わることである。

21世紀型の資質・能力は、各教科がそれぞれの役

割を果たすことと教科の連携・横断により育てられる。

2校の実践発表にもあったが、教育課程の実施(授業・事業)状況の評価して改善を図る必要がある。また、計画を立てる前の段階における状況分析・状況把握(リサーチ)が重要である。

どの期間(年間・学期・月)をサイクルとするのかがPDCAの着眼点である。

目標と計画からのカリキュラム・マネジメントとして、学校教育目標に明示されている習得させるべき資質・能力から教育課程を編成する。また、授業の振り返りからのカリキュラム・マネジメントとして、日々の授業を振り返り、単元を振り返り、年間指導計画を振り返り、年間指導計画を基にしたカリキュラム評価を行う。

教育課程の実施に必要な人的または物的な体制を確保し、資源(人・物・金)を活用して授業・事業を設計する。

人の活用としては校内(学級担任、教科担任、養護教諭等)、校外(保護者や地域の方)がある。

物(施設)の活用としては、学校だけではなく学校外の施設活用も検討する。また、有効な教材・教具の活用についても推進する。

学校予算の獲得や時間という資源の活用も大切である。

カリキュラム・マネジメントを機能化するためには校長・教頭のビジョン、ミドルリーダー(教務主任・研修主任・各担当主任等)のリーダーシップ、教職員の参画意識が欠かせない。

#### ・ 今後の動き

今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会論点整理から、「多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程」、「学習指導要領の趣旨の着実な実現を担保する方策や条件整備」、「学習指導要領の趣旨の実現に向けた政策形成・展開」についての説明があった。

(記録 井之川中 園田 泰浩)